

北海道が津波浸水予測図を公表しました

6月28日(木)、北海道防災会議地震専門委員のワーキンググループが、太平洋沿岸の津波浸水予測図を公表しましたのでお知らせします。

東日本大震災を教訓として

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0という、いまだかつて経験したことの無い大規模で広範囲におよぶ災害であり、被災地では津波により多くの命が失われました。

その東日本大震災を教訓とし、北海道大学や札幌管区気象台などで組織する『北海道防災会議地震専門委員会』のワーキンググループは、津波被害をもたらす想定地震の再検討を進め、6月28日に開催された北海道防災会議地震専門委員会で北海道に報告しました。

考え得る最大クラスの津波を想定

北海道は平成18年、太平洋岸で見つかった津波堆積物調査をもとに、日高管内えりも町襟裳岬で22mなど、道東中心に大津波をもたらす、マグニチュード8.6の500年間隔地震を想定した津波浸水予測図を発表しました。

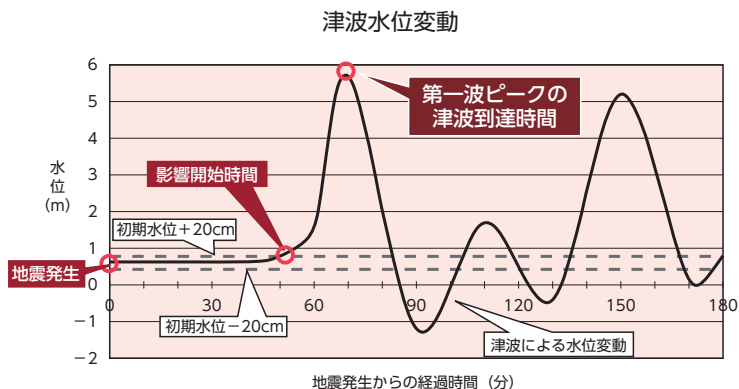
しかし、当時の想定で参考にした津波堆積物の調査地点は、十勝や釧路管内を中心に17カ所。それに対して今回は東日本大震災を踏まえ、根室や太平洋岸西側の日高、胆振、渡島の各管内で得られた新たな調査結果を反映し、現時点での最新の科学的知見に基づき考え得る最大クラスの津波を想定しています。

登別の沿岸最大水位は10.2m

公表された津波想定の際の沿岸最大水位は、太平洋沿岸市町のうち、30m以上が2町3地点、20m以上30m未満が11市町43地点、10m以上20m未満が18市町47地点でした。

市の沿岸最大水位は、栄町で10.2m、桜木町で9.2m、富浦町で8.7mであり、平成18年の最大想定水位1.6mの6倍以上になります。

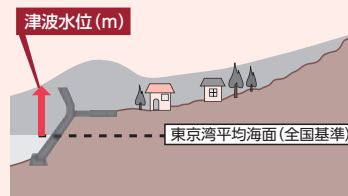
また、第1波到達時間は、栄町と桜木町で49分、富浦町で48分であり、この波に巻き込まれないよう、迅速に避難行動を取ることが、命を守るためのとても重要なポイントになります。



用語解説

津波水位

東京湾平均海面を0とした津波の高さ



沿岸最大水位

沿岸の津波水位の最大値

第1波到達時間

地震発生から津波第1波のピークが到達するまでの時間

影響開始時間

地震発生から海岸や海中の人命に影響が出るおそれのある津波による水位変動(初期水位±20cm)が生じるまでの時間